

創刊昭和55年5月5日

**こちら情報部**  
yon.ichi.hachi.

第**393**号  
【通巻394号】

発行所  
まんにちはち  
**418こちら情報部**  
〒418-0063  
富士宮市若の宮町140(きうちんさつ内)  
TEL 0544 24-1515  
E-mail: printkiuchi@space.ocn.ne.jp

印刷所  
株式会社 **きうちんさつ**

次号は 3月5日の発行です。  
発行数 15,500 部

寒い日が続いてますが、梅だよりが聞こえてきました。春の足音ももうそこまで。



近藤 博(小泉)

### ホウレン草

マンズリーエッセイ 231



ホウレン草と聞いてポパイを思い出すのは、多分私と同じ世代の人々であろう。昔はテレビで頻りにアメリカのドラマや漫画を放送していたが、ポパイもその一つであった。彼は悪役のブルートに痛めつけられると、必ず缶詰のホウレン草を食べて驚異的な力を発揮していた。当時アメリカには野菜を食べない子供が多くいたので、それを減らそうとポパイを使っていたのだらう。また思えばウインピーという登場人物が

常に食べている物がハンバーガーという物であると初めて知ったのもポパイの中であった。アメリカの情報の少なかつた当時、私はドラマや漫画を通してアメリカ文化について多くの事を学んだ。ところで私はポパイにあやかってではないが、最近ホウレン草を食べる機会が増えた。だがシユウ酸を多く含むホウレン草は腎臓結石を持つ私にとってはあまり良くないそうである。

角田猛夫

### 現代を知る ① 高齢社会への歩み

① 今年の暮れのことだ。元気な女房が軽い咳をし始めた。私は喘息があるのに咳には敏感だ。まあ、大したことはないかと、軽く考えていた。二、三日経過し、病院へと行った。女房は、風邪ひいたらしいの、微熱もあると言われた。私は、早く寝ようと言いつつ、疲れが出たんだらうと対応した。その日の夕食が終わり、体温計を取り出し、測り始めた。熱が下がらないと不安な表情を浮かべる。薬、飲んだから大丈夫と言いつつ声を遮り、再び測る。まだ、熱があるの、就寝時、二、三回続けて測る。さつきより低いけど、微熱がある」と言う。見ると三六度

五分だ。「平熱だらう」とお医者さん、三六度八分で微熱って、言われたのよ。彼女は、それから数日間、熱と戦っていた。上が八分で、下が四分だ。それでも、妻は微熱があると主張する。私は心の中でこれでは、一生、微熱のまま過ごすことになると思った。数日後、医者から「正常の範囲ですよ」と言われ決着した。この出来事で私は反省していた。妻の心の叫びに何故、同意してやれなかつたのだと。そして、今年、妻と一心同体になろうと誓った。結婚式以来の誓詞でもあった。

望月 勝

### くらしの中の言葉から ② コンテスト

今年、特に寒さが厳しく感じられますが、富士山の冠雪も例年以上に多く、お正月に帰省した人達からは「富士山らしい富士山だ!」との声が聞かれました。

富士山が日本の美しい山だと思っている人は多いでしょうが、では、どこから見える富士山が一番かといえば、人によって色々な意見があるかと思えます。

静岡県ホームページによれば、現在静岡vs山梨 富士山写真コンテスト」という催しが行われているのだとか。なんでも、これはフジテレビ系列で放映されている「ほこ×たて」毎週日曜午後七時から放送」という番組企画の一環で、両県内から見える富士山の姿を撮影した写真を募集して五枚を選び、番組内で両県どちらの富士山が美しいかを決するものだそうです。コンテストの締め切りは五月で、結果は七月に放送予定。実は、この企画は昨年も行われており、昨年三月の前回対決では、二勝三敗で静岡が負けてしまっており、今回はそのリベンジを果たしたいとの意気込みが書かれておりました。

私達にとっては、あつて当たり前、いつも見ている富士山ですが、今年、世界文化遺産登録への挑戦もあり、これまで以上に注目を浴びることになりそうです。

萬歳

### 歳寒の三友

寒さの中にあつても緑色を保っている松や柏(兎手柏)のことを寒緑といひ、「歳寒の松柏」ともいふ。また東洋画の画題のひとつ、「歳寒の三友」は、寒気に耐える松・竹・梅(あるいは梅・水仙・竹)のこと。

『成語林』によると、「三益友」は、①交際して自分に益する三種の友人をいう。正直な友、誠実な友、博学な友のこと。「益者三友」ともいふ。②(風流なもの)の代表として)梅・竹・石をいう。——「三損友」は、交際して自分の害となる三種の友人のこと。体裁を飾るだけで正直でない人、表面だけにこやかで誠実さのない人、口先だけで巧いことを言う人の三種の友人をいう。「損者三友」ともいふ。——(「論語」季氏)

かつて、「百聞は一見に如かず」と旅に出て此の方、一度が二度(ふたたび)の旅回りとなり、津々浦々をめぐる中、処々で生業の人の汗が伝わり、また伝統の重みを垣間見る。ともすれば、物見遊山になりがちだったが、旅を重ねて行く中に、思いがけない場に出会ふことも。

目(視) 〓道すがらふるさとの原風景がながれ  
耳(聴) 〓お国訛りの掛け声に安堵感を味わい  
鼻(嗅) 〓炉明りの団らんに田舎暮らしが漂い  
舌(味) 〓地場ならでの山海の幸に舌鼓を打ち  
皮膚(触) 〓道中の湯ぶねにひたり暫しやすらぐ  
折しも霜雪を凌ぐ松竹梅の息遣いを感受するかたわら、五感の喚起を促す旅の空。——いわゆる、人生は出会いである。一人と一度だけ会うのも味わい深い、重ね重ね一人と百度、かつ百人と百度出会う中から、心のありよう(有様)を決する。「邂逅」を求めたい。

「邂逅」といふ。

日脚伸ぶ里の灯や山の影

K E N III

### 静岡県立朝霧野外活動センター

「プラネタリウム一般開放  
～みずがめ座ってどんなかめ?～」  
日時:17日(日)  
1部 13:15～受付 13:30～14:30上映  
2部 15:00～受付 15:15～16:15上映

「スケート一般開放」  
毎週日曜日、3月末まで週末開催中!  
主催事業等で実施しない日もございます。  
詳しくはセンターまでお問い合わせください。  
時間:1部12:30～、2部15:00～  
定員:1・2部共に各75名(要予約)

申込等、詳細については  
お電話にてお願いします。 TEL(0544)52-0321

